

「PET-CT」のこと

「PET-CT」は、がん細胞が正常な細胞より約3～8倍のブドウ糖を摂り込もうとする性質を利用しています。検査は簡単です。

まず、ブドウ糖に放射性物質を合成した検査のための薬(FDG)を注射します。→がん細胞はこの薬(FDG)をブドウ糖と同じようにたくさん摂り込みます。→薬(FDG)は細胞に摂り込まれた後に目印となるガンマ線を出します。→この目印(ガンマ線)を画像化することでがんの有無や位置、悪性度がわかります。

注射を1本するだけで、他に痛みや苦痛もなく、一度に全身の検査ができるため、予期しないところにできたがんや早期のかなり小さいがんが見つかることもあります。

一般的に、「PET-CT」は通常検査の約10倍見つかる可能性が高いと言われています。これまで見つけにくかった肺やすい臓には力を発揮します。

<PET-CT>



もちろんこのPET-CTだけで全てのがんが見つかるということではありません。MRIやCT、エコー、血液検査などが必要です。特に女性の場合には罹患率の高い乳がんは、マンモグラフィーやエコーも組合せて総合的に判断することが重要です。

